

第4回 阪南市総合計画審議会 要旨

日時：令和3年4月16日（金） 15：00～17：00

場所：阪南市役所 3階 市役所3階 全員協議会室

●協働・共創

- ・大事なものは市民 NPO がいろんな意見を持っていて、その中で行政側がそれを受け取って生かしてくれるという仕組みがないといけない
- ・職員一人一人が意識し、上司がその進め方をオーソライズしないといけない
- ・市民の意見と行政のもうやっているという認識の違いを明らかにし、ニーズとサービスを合致させる仕組み（システム）が必要ではないか
- ・地域プレイヤーという言葉が出ている。具体的に想像していると思うが、意図するプレイヤーを市で育てるという立場をとるべきではないか（市の考えのもと動いてもらうようコントロールするため）
- ・各年代で集まれる場所があればいいし、そこで話された内容が実現させるシステムがあるべき
- ・行政も地域の一員であるという立場であることから、協働共創の場には行政も加わり一緒に考えるというスタンスが必要
- ・地域活動する人が減ってきている、分担する必要があるし継続できるようにしていかなければならない
- ・職員も自覚をもって活動していただかないとならないと考えている。現地の活動にある程度は参加してほしい
- ・行政経営の部分で「共創」についても入れるため、P32にも市民との協働を入れるべき。また、P31行政も加わる旨を入れてほしい。

委員長

- ・本当の意味での協働・共創を進めるために、具体的なところについては基本計画や実施計画で書いていくことになろうかと思うが、そういった姿勢・システムは今後検討する必要がある
- ・自助一公助、公でしかできないことははっきりしているため、積極的に行政が動いた方がいい（行政しかできないこと）こともある。基本的には3点を同時に動かすことが重要
事例：▷宝塚
→協働について話し合う委員会を設置している。そういった場を設けることも一つかと思う
- ・地域共創の拠点で書き込むか検討する
→暮らしやすい環境整備が重要とあるが、地域住民の日常としての居場所

●教育

- ・中学生や子供たちが知らない仕事も多い、キャリア教育に力を入れるべきではないか
- ・阪南市独自のプランを作るのもいいと思うし、社会参画の考えを取り入れたプログラムを導入し幼いころから自分たちのまちを自分たちでコントロールすることを教えることも入れるべきではないか
- ・総計審から何がどう生まれるのかわからない
- ・参画は企画の段階から関わることであるので、トップダウンではなく市民の意見を聞きながら柱を作るなどやり方を変えるしかないと思う

委員長

- ・基本構想で方向性をみなさんと協議して決める、基本計画ではさらに具体的に書いていく旨を説明
- ・教育は重要、協働の分野でも起業・プレイヤーを育てるということは必要な動きであるとする

●阪南市の魅力

- ・全国のモデルとなる地域福祉をしてきた実績がある、そういった誇るべき歴史を思い起こして参考にしていく
- ・誰もが、というところでフォローアップできる環境も必要だが、財政を健全化する仕組みがある、そこには自然環境が豊かで、ということも必要
- ・財政を健全化させる基盤も必要
- ・サービス向上につながることを基本構想にもりこみ、基本計画にしっかりと反映させる必要がある
- ・高齢者も参加できる環境を作っている
- ・危機管理の自覚はあるか、周辺も含めた災害が起きた時にどの程度参集集まってくれるか、何とか協力体制を構築していただきたい
- ・こどもたちのためのプレイパークを阪南市でもしたいと考えている。阪南市は自然がたくさんあるが、プレイパークに使うための条件がそろっている箇所が少ない
- ・ハイキングマップがあるので、難波駅で職員がハッピーを着て配布するなどもっとPRしてほしい（山の活用）

●新総合計画の内容について

- ・「今まで10年の振り返り」も入れるべき（積み残した課題）
- ・P15・16、課題とP31に整合性がないのではないか
- ・人口減少は事象、事実・問題と課題、だからどうするという方向性を再度整理することが必要
→事実は表や図でまとめる。そこから課題の整理で基本計画にする

委員長

- ・P17に課題入っているが少し調整が必要
- ・人口が減るから悪いのはなく、詳細に要因分析をして対応策を入れるように再検討する必要がある
→柱として協働共創をおくのはよい。どう具体的にシステム化するかを議論しながら基本計画に落とし込む。都市像に共創という言葉が入るので、その観点からもしっかりと議論する。

●土地利用の基本方針

- ・土地の通りの可能性を排除するように記載できないか
- ・若年者募集をしている中山間の市町がある、阪南市も呼び込んでほしい
- ・理想的なまち、住みたいまちの上位に入れるよう条件をクリアしていく
- ・空家空き室の利用：キッチンカーの補助などやっているところもある、住民からのアイデアを活用しながら具体的に動かしてほしいと思う
- ・道路的にラダー構造になっているのが特色。今回もしっかりわかりやすくして都市構造はわかりやすくしてほしい
- ・スカイタウンの西側（産業誘致ゾーン）は産業を誘致する際に、なんでも来たらいいというわけではなく、山の自然にあった企業を誘致する
- ・里山保全活動、学校が山に社会科見学にいけるように書くのはどうか。産業誘致ゾーンの名前変えて単

- なる企業が来ていいという場所ではなく、いろんな使われ方、配慮された土地であることを表すべき
- ・尾崎駅（都市機能誘導区域）以外の6か所（コミュニティ機能の拠点）、どこまで詳細にするか（道路名所入れるかなど）、どのレベルで書くのかは行政としてどこまでやるかの意思表示になるため、精度はあげておいた方がいいと思う（道路、鉄道名、駅名）
 - ・展望台があるのでその途中に山の駅があってもいいのではないか
 - ・個人で山を持っている人と市が仲介して繋いでいただきたい（貝塚の事例）
 - ・山中溪の駐車場代が地元の人がいく時のネックになっている
→駐車場の問題はわかるが、わんぱくに関しては条例の問題もあり難しい
 - ・市民緑地など新たな公園のシステム：生駒
 - ・新たな公園利用を検討するか描くか（仕組みづくり→市民と話し合っ作れるか：都市公園レベル）
 - ・歩くゾーンを作ってはどうか（JRの駅と南海の駅を結ぶ道を設定してはどうか）
 - ・埋め立てをこのエリアでするのは難しい。稼げるまちにするためにこの土地変更だと思うが、今後どのような企業を誘致するかによってこの部分の広さとかが具体的に変わってくると思う
 - ・せんなん里海公園は府の施設だと思うが、観光拠点として書き切って大丈夫か
→底地は府だと思うが整理ができているか確認する

委員長

- ・まちづくり的な観点で記載してほしい
- ・委員の話をきいて行政以外が持つ森林・緑地を利用するときどうコーディネートするか
→市民同士がつながる仕組みを基本計画で記す
- ・ワーカブルなまちを目指すと思うが、詳細については基本計画で議論することとする

●HW

- ・P25、行政がとらえているすでにあるシステム（どこか？）
- ・同「目指します」ではなく書き切る
→どこの課にもっていくかまでを企画で想定
→検証の文が必要なのではないか
- ・他地域で小学校、どういった形で起業教育などしているか基本計画レベルで情報を入れていく
- ・共創についての考え・概念図はあるが協働についても図式化して、協働・共創同じくらいの説明が必要ではないか
- ・次回からカラー（特に土地利用図）で印刷してほしい